

横型精穀機

特 願 昭 39-71580
 出 願 日 昭 39.12.19
 発 明 者 出願人に同じ
 出 願 人 阿部彦七
 東京都足立区千住4の63
 代 理 人 弁理士 野沢睦秋

図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は縦断側面図、第2図は正面図、第3図は第1図X-X線の縦断面図である。

発明の詳細な説明

横型の精穀機特に一回搗精穀機においては搗精中発生する糠を効率良く除去することが最も望ましい。しかし従来の噴風式つまり、精穀ロールを中空ロールとし、外周に移送螺旋に連続させて2条の噴風口と突縁をロール軸に平行に形成したものと、これを外筒内において回転させ噴風口より噴風させ外筒内に供給した被加工穀粒を搗精し発生した糠を摩擦筒の細孔より噴風とともに排除するようにしたものでは噴風が穀粒の間を縫って摩擦筒外に放出するものであるから風圧が極端に減せられて摩擦筒の細孔を閉塞して出が悪くなりしたがって内部の穀粒は熱をもち風味を損なう欠点がある。

本発明はこのような欠点を除去したものであつて、上記摩擦筒外周を排風機に連結した密閉函で囲み該排風機の吸気により除糠効率をあげると共に搗精効果を良好ならしめ精米の風味をよくする様にしたものである。

以下本発明を図面に示す実施例について説明すると、1は上面に穀粒供給口2を形成した穀粒移送筒、3は該穀粒移送筒に連続して前部に設けた周面に多数の細孔を穿設した摩擦筒、4は該摩擦筒の端部に設けた排出筒で、口部に加圧調整蓋5を有する。6は精穀ロールで外周に穀粒移送螺旋7に連続して2条の突縁8と該突縁と近接して回転方向と反対側における溝9をロール軸に平行に形成したものとすると共に移送螺旋7部分を端縁

に吸気口10を設けた中空室11としこれを上記溝9と連通させて成るものとする。12は摩擦筒3を圍繞した密閉函で排風機13の吸入孔14と連結する。15は該排風機の回転軸16に固着したブリーで精製ロール6の回転軸17に固着したブリー18とVベルト19で連結する。20は回転軸17に固着した回転用ブリー21は排気機13の排気口に連結したサイクロン、22は穀類供給口2上に載置したホッパー23はダンパーである。

次にその作用を説明すると、ブリー20を原動機(図示せず)の駆動により回転して回転軸17の回転で精穀ロール6を回転すると共に排風機13を駆動し、ホッパー22に穀粒を投入してダンパー23を開いて穀粒を移送筒1に供給する。然るときは穀粒は回転する精穀ロール6の移送螺旋7により前方へ送り込まれ、摩擦筒3において精米される。他方排風機13の駆動によつて密閉函12内が吸気されるから精穀ロール6の中空室11に吸気孔10より外気が導入され溝9を通じて摩擦筒3内に供給され該摩擦筒の細孔より密閉函12に吸気される。従つて摩擦筒3内に発生する糠は細孔より強引に吸引除糠されて排風機よりサイクロン(図示せず)に送り込まれ、精白された穀粒は排出筒4から加圧調整蓋5を押開いて落下排出する。然して本発明は摩擦筒に発生する糠を吸引によつて除くものであるから従来の噴風式のものに比して細孔に作用する吸気力は極めて強い(従来の噴風式では噴風は各穀粒の間を縫って噴出し、又その一部は排出筒から噴出する。)従つて摩擦筒壁に近い部分の糠は強力に細孔から吸引されて細孔が閉塞されることがなく、中空室11を通じて流入する外気の穀粒間を通過する速度が早く穀粒を冷却するから熱をもつ度合が小さく熱による穀粒の変質は全くない。

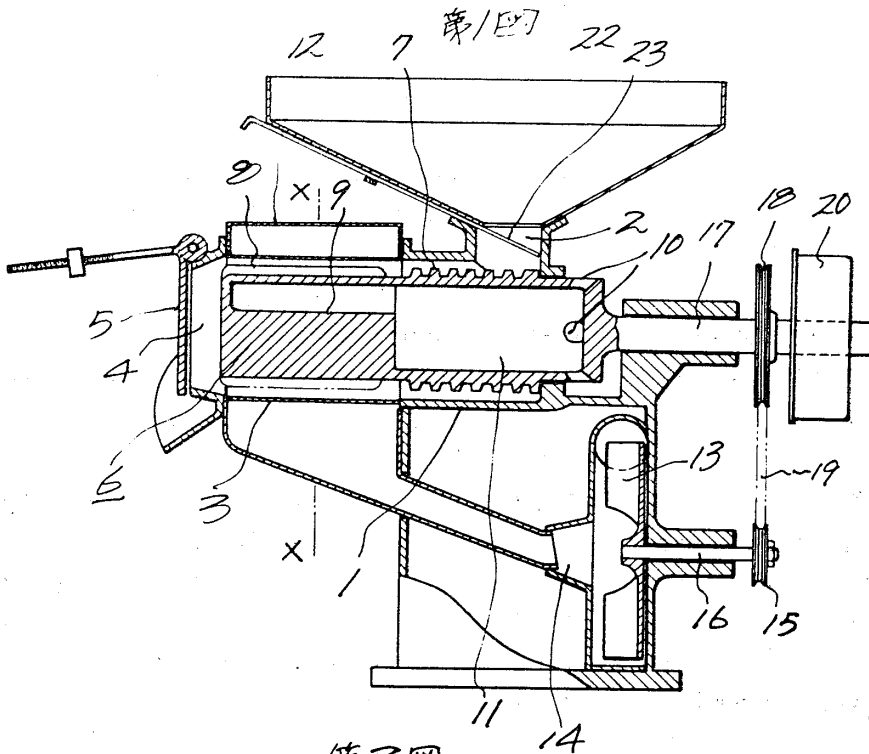
上記の通り本発明は除糠効率をあげると共に搗精効果を良好ならしめ且精米の風味を向上する等の特徴を有する。

特許請求の範囲

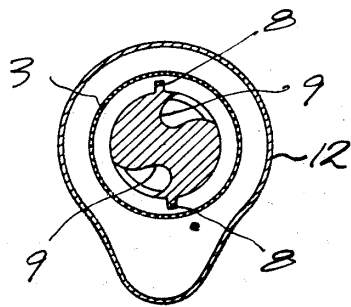
1 本文に詳記するように、穀類移送筒に連続して周面に多数の細孔を穿設した摩擦筒を設け、これに外周に穀粒移送螺旋につづいて軸方向に通気

口及び突縁を形成し、且前記穀粒移送螺旋部外端に外気と連通する吸気口を形成した中空ロールを収装し、次で前記摩擦筒部分を排風機に連結した密閉函で囲繞し、該排風機の吸引力により中空ロ

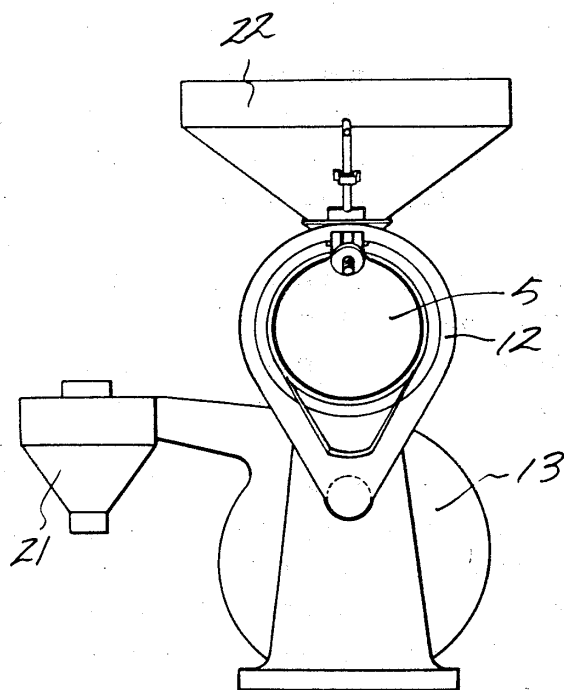
ールを通じて外気を摩擦筒に導入し、続いて該摩擦筒の細孔から吸気するようにした事を特徴とする横型精穀機。



第1図



第2図



第3図